

第21回 アンサンブル・ フェスティバル

スズキ・メソッドの
子どもたちによる

記念特別イベント～次の世代への懸け橋に
「子どもたちとOB・OGの共演」



祝 才能教育研究会 70周年記念

OB・OG会 第9回コンサート

2016
5 / 15 (日)

12:30 開場 13:00 開演
全席自由 1,000円

国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール

主催：アンサンブル・フェスティバル委員会
スズキ・メソッドOB・OG会
後援：公益社団法人 才能教育研究会

スズキ・メソードの子どもたちによる

第21回アンサンブル・フェスティバル

アンサンブル・ミュージズ (指揮: 古谷いづみ)
ムソルグスキー/ラヴェル: 展覧会の絵

宮チェロ (指揮: 宮田 豊)
バッハ: 無伴奏チェロ組曲第6番 二長調 BWV 1012 より「サラバンド」「ガヴォット」
すぎやまこういち: ドラゴンクエストⅢ

アーテム合奏団 (指揮: 守田千恵子)
ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲 イ短調 Op. 3, No. 6, RV 356 《調和の靈感》より
独奏 第1楽章: 大野麗、第2楽章: 芳賀詩音、第3楽章: 二宮沙那

アンサンブル・ビルケ (指揮: 松井直樹)
テレマン: リコーダーと弦楽のための組曲 イ短調 TWV 55:a2
リコーダー 辺保陽一

アンサンブル・銀座 (指揮: 宮田 豊)
モーツァルト: セレナーデ第13番 長調 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より
第1楽章、第3楽章

アンサンブル・ソノリテ (指揮: 斎藤りえ)
モーツァルト: 歌劇《フィガロの結婚》K.492 より
序曲、アリア「恋とはどんなものかしら」

—— 休憩 ——

OB・OG 会 第9回コンサート (指揮: 金森圭司)

パッヘルベル: カノン

シューベルト: 弦楽四重奏曲第13番 イ短調「ロザムンデ」D804より
第2楽章、第4楽章

バッハ: 2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV 1043
ヴァイオリン独奏 木村真一、給田俊哉

才能教育研究会 70周年記念特別イベント〜次の世代への懸け橋に
子どもたちと OB・OG の共演 (指揮: 金森圭司)

ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲 イ短調 第1楽章
鈴木鎮一: キラキラ星変奏曲

Program note 曲目紹介

ムソルグスキー (ラヴェル編曲): 展覧会の絵より

ロシアのムソルグスキー (1839~81) が、友人である建築家、画家のガルトマン (1834~73) の突然の死を悼み、彼の遺作展のために作曲したのが、ピアノ曲<展覧会の絵>です。そして1922年にラヴェルがオーケストラに編曲し、忘れられかけていたこの作品がパリで復活しました。

今日は、プロムナード、古い城、プロムナード、チュイルリー、ビードロ (牛車) ババヤーガーの小屋、キエフの大門を演奏します。ガルトマンが描いたロシアの音楽詩人、パリのチュイルリー公園の華やぎ、ポーランド人抵抗者の処刑を意味する牛車、ロシアの魔女ババヤーガー。そして大門が描かれたキエフは、9世紀からタタール、プラハ、クラクフ、リュベックにつながる東西交易の拠点として栄えました。どうぞお聴きください。

アンサンブル ミュース

1991年に古谷クラスに誕生しました。2015年冬の発表会では、チャイコフスキーの弦楽セレナーデなど合奏曲7曲を演奏しました。聴き合って演奏することで、音楽の喜びを感じ思いやり深い、そして忍耐強い心を育てていきたいです。古谷クラスの歴史の1ページになるよう、がんばります。

バッハ: 無伴奏チェロ組曲第6番 二長調 BWV1012 より「サラバンド」「ガヴォット」

6曲ある、バッハの無伴奏チェロ組曲の中で、声部が高音域にあるこの第6番は、テクニク的に一番難しい曲です。今回は、この中から、讃美歌を彷彿とさせ、最も優雅で美しいメロディを持つ「サラバンド」と、軽快で踊るようなリズムを持ち、馴染みのある「ガヴォット」を、小さな子どもたちでも弾けるようアレンジしました。チェロの名曲をチェロアンサンブルでお楽しみください。

すぎやまこういち: ドラゴンクエストⅢ

全世界で有名になったゲームソフトで、ロトシリーズ3部作の完結編です。ドラゴンクエストⅠ

第1作目はバロック調で作られたのに対し、ドラゴンクエストⅢはヒロイックな響きを求めてロマン派調に作られています。今回はⅢで出てくる曲をメドレーにして演奏します。全シリーズ共通メロディの序曲と、Ⅲでは「ロトのテーマ」と題されている①オープニング曲、②町、③教会、④王宮のロンド、⑤冒険の旅(フィールド)、⑥夜の町/村の順で演奏します。町ののどかな雰囲気や、音を通してイメージしていただけたらと思います。

宮チェロアンサンブル

宮田豊先生のご指導のもと、現在育ちつつある子どもたちから卒業したOB・OGまでで構成され、日頃からチェロアンサンブルを楽しんでいます。東日本大震災のあった2011年は、このフェスティバルには参加できませんでしたが、本日の演奏のように、チェロアンサンブルの力強く、エネルギーで、どこかおもしろい演奏をお聴きいただき、皆さんがハッピーになってくださることを願っています。

ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲イ短調 Op.3-6 《調和の靈感》より

ヴィヴァルディが1711年に出版した合奏協奏曲集《調和の靈感》は、1~4本のヴァイオリンのために書かれた12曲から構成されている協奏曲集で、リトルネロ形式(トゥッティで演奏される主題「リトルネロ」と、リトルネロに挟まれた独奏楽器で演奏される部分から構成される協奏曲)によって、急~緩~急の3楽章の独奏協奏曲になっています。スズキ・メソードではamoll(アーモール)の名前で親しまれている第6番イ短調も1.Allegro~2.Largo~3.Prestoの3楽章で構成されています。

アーテム合奏団

守田クラスの中で結成された合奏団です。アーテム(Atem)とは、独語で「呼吸」という意味で、演奏にそれが感じられる本物の音を目指して励んでいます。アーテム合奏団では今回はスズキ・メソード教則本4巻、5巻に載っているヴィヴァルディ作曲amoll(アーモール)全楽章を、守田クラスの生徒3人のソロとともに演奏します。こ

の合奏団が常に目指している音の響きと、生き生きとした演奏ができましたら幸いです。

テレマン：リコーダーと弦楽のための組曲 イ短調

テレマン (1681 ~ 1767) はバッハと大変親しい間柄でしたが、バッハが死去した時には、バッハの業績を最大限に称える追悼の言葉を送ったと言われています。良き友でありながら互いが刺激しあい、それぞれのスタイルで多くの作品を創作したことと思われます。また彼は、86年の長い生涯で膨大な数の曲を作ったことで知られ、『ギネス世界記録』においても、クラシック音楽の分野で最も多い4000曲を超えるものと考えられています。

本日の演目の、リコーダーと弦楽合奏のための組曲は全7曲からなり、技巧的でイタリア的な手法と旋律美を兼ね備えた作品であり、バッハのフラウト・トラヴェルソのための組曲イ短調のモデルとなったとも言われています。フランス風の音楽語法を取り入れた洗練された音楽と言えるでしょう。

アンサンブル・ビルケ

松井クラス在籍の中でフルサイズのヴァイオリンが弾ける生徒さんと編成されています。一年に一度この時期に集まり、バロック音楽を主に、アンサンブルの基礎から高度な音楽性に至るまで、普段の個人レッスンではできないことを練習しました。毎年このフェスティバルを目標にしていますが、今回はテレマンの曲をバロックスタイルの演奏にすることに努力しました。ビルケ=白樺の青空に輝く白い幹と青葉のような澄んだ音色の音楽で、今日は演奏できればと思います。

モーツァルト：セレナード第13番ト長調 K.525

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

モーツァルト (1756 ~ 1791) が作曲したセレナードの中で、最も有名な作品です。恐らく、彼の全作品の中でも最も広く愛されている作品でしょう。モーツァルトの曲については「天才的な」「完成された」といった言葉で形容されることがよくありますが、この曲はその「天才的で完成された」作品の代表です。

モーツァルトの他のセレナードに比べると、楽章

は少なく、4楽章からできています。「小さな交響曲」と言っても良いほどコンパクトに整然とまとまった作品となっています。どの部分を取っても親しみやすい旋律にあふれ、完璧と言って良いほどのバランス感覚を持っています。

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」とは、「小さな夜曲」といった意味のドイツ語です。日本人にとってそれほど親しみやすいとは言えないドイツ名そのままでも親しまれているのも、この曲の人気の高さを反映しているのではないかと思います。ちなみにこのタイトルはモーツァルト自身が付けたものと言われています。

アンサンブル・銀座

スズキ・メソッド銀座教室は、設立してから8年が経ちます。現在ヴァイオリンとチェロのクラスがありますが、生徒さんたちも年々増えて、やっとアンサンブルができるまでになりました。昨年に続き、2回目のアンサンブル演奏を皆様にご披露いたします。今回の参加者は、譜面が読めることが条件で集めました。皆、一生懸命意気揚々とワクワクして演奏に臨みます。やっと譜面が読めるようになった小さな生徒たちも参加している「アンサンブル・銀座」を、これからも温かく見守ってくださいますようお願いいたします。今回は銀座教室、木曜日にチェロクラスを担当している宮田豊先生による指揮で演奏します。

モーツァルト：歌劇《フィガロの結婚》K.492 より「序曲」「アリア《恋とはどんなものかしら》」

《フィガロの結婚》は、モーツァルトが作曲したオペラ21曲の中で最も有名な曲です。序曲と全4幕から構成されていますが、この序曲は時間的に4分30秒と短いながらもソナタ形式で、これからどんなオペラが展開されるのだろうかと期待させてくれるようなワクワク感のある素敵な曲です。

アリア「恋とはどんなものかしら」は、恋に目覚めた青年の心の苦しみを歌っている曲です。短い曲の中で長調と短調を繰り返しているのにもかかわらず、自然と伸びやかなメロディが魅力的です。歌詞がわからなくても、音楽を聴いているだけで不思議と幸福感に満たされてまいります。

アンサンブル・ソノリテ

斎藤クラスの弦楽団です。「ソノリテ」とはフランス語で〈良い音の響き〉という意味ですが、このことは日々のレッスンの中で身に付けるように心がけています。今年は昨年演奏しました《セビリアの理髪師》の続編が《フィガロの結婚》であるということを知り、この曲に決めました。今日は、この魅力的な2曲をワクワクしながら演奏したいと思います。

パッヘルベル：カノン

ドイツの作曲家、パッヘルベル (1653 ~ 1706) がバロック時代中期の1680年頃に作曲したカノン様式の作品です。原曲は「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジークニ長調」の第1曲。この曲は、「パッヘルベルのカノン」の名で広く親しまれており、パッヘルベルの作品の中で最も有名な、そして一般に知られている唯一の作品です。「カノン」とは、元になる旋律(主題)と同形の旋律をずらし、重ね合わせた形式のもので、よく知られる「かえるの歌」もカノンの一種の輪唱に当たります。

シューベルト：弦楽四重奏曲第13番イ短調

「ロザムンデ」D.804より第2楽章、第4楽章

「ロザムンデ」の通称で知られるシューベルト (1797 ~ 1828) の弦楽四重奏曲第13番は、1824年に作曲され、同じ年に作曲された第14番「死と乙女」と並んでよく知られた作品です。

第2楽章の変奏曲の主題が、劇付随音楽「キプロスの女王ロザムンデ」第3幕間奏曲から転用されていることから「ロザムンデ」の名がついています。シューベルトはこの主題が気に入っていたようで、ピアノ独奏のための即興曲作品142の3の主題にも使っています。歌心いっぱいメロディメーカーとして知られるシューベルトの作った作品の中でも、特にシンプルな美しさに溢れ、一度聴けば、覚えてしまうような名旋律です。

第4楽章は、ハンガリー風の楽章で、冒頭は民族舞曲風のメロディがリズムカルに展開します。長調ですが、哀愁の漂う寂しげな表情が大変魅力的。いかにもシューベルトらしい作品です。

バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043

バッハ (1685 ~ 1750) が45歳頃の作品で、精密な対位法と情緒的な旋律のバランスがよく、ヴァイオリン学習者の憧れの曲の一つ。通称ドッペル。

第1楽章は、印象的な主題から始まります。鈴木鎮一先生が「キラキラ星変奏曲」の冒頭に、この主題と同じ「タカタカタッタ」にしたのは、ドッペルを意識されてのことだそうです。音の跳躍が大きい2つのソロヴァイオリンのフレーズと、大胆な分散和音のフレーズが程よくブレンドされています。

第2楽章は、この世のものと思えないほど美しい緩徐楽章。完成度が高く人気もあります。下降音のテーマがソロヴァイオリンで奏されると、次のヴァイオリンがフーガ的に入って互いに絡み合いながら「音楽という織物」を織り上げていくかのようです。いつまでも尽きない昔話をする旧友との楽しいひと時といった曲。

第3楽章は、一転して、たたみかけるような16分音符の洪水です。時々揺れるようなソロヴァイオリンのフレーズと絡みながら音の流れは、最後までとどまることはありません。

本日は、第1楽章と第3楽章の第1ヴァイオリンを給田俊哉、第2ヴァイオリンを木村眞一、第2楽章では第1ヴァイオリンを木村眞一、第2ヴァイオリンを給田俊哉の独奏でお届けします。

OB・OG 会出演メンバー

- 1st.Vn 萩原園子、川合公純、清水優、給田俊哉、守田千恵子、守田マヤ、吉田智彦
- 2nd.Vn 新井友理、川野俊彦、木村眞一、小玉由貴、清水緋菜子、城島聡、富田則子、二神彩洋子
- Va 館石奈未子、納原宏和、服部宏美、服部眞一郎、守田直哉
- Vc 奥村景、新巳喜男、葦沢有、宮田豊
- Cb 細野理絵

Greeting OB・OG会よりご挨拶

今年は、才能教育研究会の創立者鈴木鎮一先生が長野県松本市で、スズキ・メソードの礎となる松本音楽院を終戦直後の1946年に開設してから70年の記念すべき年になります。

ヴァイオリンを通じて子どもたちの感性を育て、ひいては人としてあるべき姿へと立派に育てていく、このスズキ・メソードは、今や世界46カ国・地域の40万人を超える方々へと広がり、先生のお言葉通り「世界の夜明けは子どもから」を具現化していると言えます。

本日、この記念すべき年のイベントの一つとして、《祝 才能教育研究会70周年記念》と題し、スズキ・メソードによる深い人間教育のお考えを実践すべく熱心にご努力をされておられる5名のスズキの指導者とその生徒さんによる、第21回アンサンブル・フェスティバル、および、OB・OGによる第9回コンサートを開催する運びとなりました。ご来場の皆様には、その成果をお楽しみいただければ大変光栄です。

スズキ・メソードOB・OG会は、2010年に発足して以来、OB・OG会コンサートの他、楽器を持って集まろう会、室内楽を楽しむ会、懇親会、スズキ・メソード世界大会開催のバックアップなどを通じて、異業種に携わるOB・OG会員の方々の相互交流や、才能教育研究会への金銭的

な支援などを果たしてまいりました。

これまでの当OB・OG会のコンサートでは、才能教育研究会の故中嶋嶺雄会長、豊田耕児名誉会長をはじめ、ヴァイオリン奏者の渡辺玲子さん、大谷康子さん、水島愛子さん、ヴィオラ奏者の川本嘉子さん、チェロ奏者の宮田大さん、ピアノ奏者の江澤聖子さん、東誠三さん、オーボエ奏者の渡辺克也さんらにご出演いただきました。

今回は、現役の弁護士としてご活躍の木村眞一会長、元商社マンとしてご活躍された給田俊哉副会長のお二人をソリストに迎え、また、指揮者としてもヴァイオリン奏者としても、現役の医師としてもご活躍の金森圭司さんをお招きし、バッハのドッペルコンチェルトなどを演奏します。この演奏の実現は、「生涯教育」としてのスズキ・メソードの姿を端的に表していると言えます。

最後に、この記念すべき70周年にあたり、スズキ・メソードのすべての関係者が、鈴木鎮一先生の築かれたスズキ・メソードのお考えの原点に立ち戻り、スズキ・メソードのさらなる飛躍へとともに努力して行きたいと思っております。

スズキ・メソードOB・OG会役員一同

Staff Members

木村眞一（会長、才能教育研究会 業務執行理事）、給田俊哉（副会長）、川野俊彦（事務局長）
事務局：秋葉三佐子、井崎展江、小玉由貴、佐野登喜男、新巳喜男、末廣悦子、鈴木祐子、服部眞一郎、服部宏美、守田千恵子（五十音順） Special Thanks 公益社団法人才能教育研究会（本部事務局、東京事務所）

●定時総会のお知らせ

日時：2016年7月2日（土）17:30~19:30 会場：OSTERIA Naturale（築地のイタリアンレストラン）

●「70周年記念コンサート」参加者募集

日時：2016年8月2日（火）13:00~16:00 会場：松本市総合体育館

いずれも詳細は、OB・OG会公式サイトでご案内しています。

<http://www.suzukimethod-obog.com/>

Profile OB・OG会コンサート ソリスト・指揮者



独奏：木村眞一

5歳より、スズキ・メソード「白楽支部（後に神奈川支部）」で船橋孝昌先生よりヴァイオリンを学ぶ。10歳で神奈川県立音楽堂でモーツァルトの協奏曲第5番を演奏。11歳で研究科卒業。都立新宿高校時代は1年先輩の池辺晋一郎氏と新宿高校器楽部を創立するなど活躍。東京大学法学部時代は少林寺拳法に熱中。のちに少林寺拳法関東学生OB会連合会会長の役職を14年間勤めた。72年に司法試験合格、東京弁護士会に登録し、高橋法律事務所に入所。現在代表を務める。スズキ・メソードOB・OG会会長。才能教育研究会業務執行理事。

本日は貴重な休日にもかかわらず、ご来聴をたまわり、誠にありがとうございます。

私がバッハのドッペルを学んだのは、7歳頃と記憶しますが、当時は譜を読めない子どもたちが多く、耳と指で曲を覚えていきました。ドッペルを合わせるのに、休符を数えないで曲の流れで合わせておりました。

ある合奏レッスンで、鈴木鎮一先生が、「第1ヴァイオリンは曲が始まったら弾きながら2階へ昇って、第2ヴァイオリンは地下へ降りてここへ帰ってきてください」と言われて帰ってきたら、そんなはずでないなかったことを鮮明に覚えています。正にスズキ・メソードでありました。

折しも本年は、スズキ・メソードの発足70年の年です。種々のイベントが企画されておりますが、その一つとして、「大人のスズキ」があります。鈴木先生は「どの子も育つ。育て方一つ。」の言葉で幼児教育を提唱される一方、「心若ければ皆若し」という観点から「生涯教育」の視点も唱えられたのです。私どもスズキ・メソードOB・OG会は、かつてメソードで学んだ人と、現在の教室で学ぶ大人たちが一緒になって異業種の輪を拡げることを目指します。

皆様、今後ご理解をいただきたく、よろしく願いたします。

指揮：金森圭司



4歳よりスズキ・メソードにてヴァイオリンを始める。慶應義塾大学在学中、ワグネルオーケストラの学生指揮者やジュネスコオーケストラのコンサートマスターを務める。法学部卒業と同時に東京藝術大学に入学。NHK交響楽団などでヴァイオリニストとして演奏する傍ら、桐朋学園大学で指揮を尾高忠明氏に師事。その後医師を志し医学部へ。卒業後は東大病院や東大大学院博士課程などを経て、東京港区の広尾かなもクリニック院長として活躍中。2014年には世界46カ国、約800人の医師が登録するワールドドクターズオーケストラの日本公演で、コンサートマスターの重責を担った。OB・OG会コンサートには、2013年の第4回から出演している。



独奏：給田俊哉

4歳より、スズキ・メソードにてヴァイオリンを始め、11歳で同研究科を卒業。慶應義塾ワグネル・ソサイエティ・オーケストラ、及びワグネル・ソサイエティOBオーケストラのコンサートマスターを歴任。鈴木鎮一先生には小学校5年生より高校2年生までの7年間にわたり師事を受けた。住友商事、住商オットー、エディー・パウアー、モンリープ、ストック・ジャパン勤務を経て、65歳の2010年をもって社会人を卒業。現在も精力的に演奏活動を継続。スズキ・メソードOB・OG会副会長、ワグネル・ソサイエティOBオーケストラ元代表。

今回、はからずもスズキ・メソードOB・OG会員の皆様とドッペルコンチェルトの共演をする機会を与えていただき、大変嬉しく心から感謝いたしております。

1949年、当時4歳5か月の時から今日に至るまでヴァイオリンの常にある人生を楽しみながら過ごすことができたきっかけは、私の故郷である伊那が、松本と同じ長野県下であり、1946年に才能教育研究会がスタートし、まず県下にスズキ・メソードの活動が徐々に広がって行く時期に幸運にも学べたことに一番の理由があると思います。太平洋戦争直後、日本の大変な混乱期の直前にドイツより帰国された若くてハンサムな鈴木鎮一先生のまったく新しい教育理念・方法に、まずはお母様方が賛同され、幼子のこれからの将来に対する明るい光明をそこに見い出されたのではないのでしょうか？

半世紀以上も私の傍らには常にヴァイオリンがあり、プライベートな生活は言わずもがな、65歳で卒業した現役商社マン時代の中でもヴァイオリンを弾けることが、欧米人との仕事上の人間関係の距離を即座に縮め、深い信頼関係や友情を築くことに不思議に役立ったことに驚きすら感じます。おそらくヴァイオリンを学ぶことが、その音楽を通じて自身の性格形成にも良い方向で役立っていたのだと思います。

祝 才能教育研究会70周年記念 改めて、心から鈴木鎮一先生に感謝、両親に感謝です。



3つの試奏室

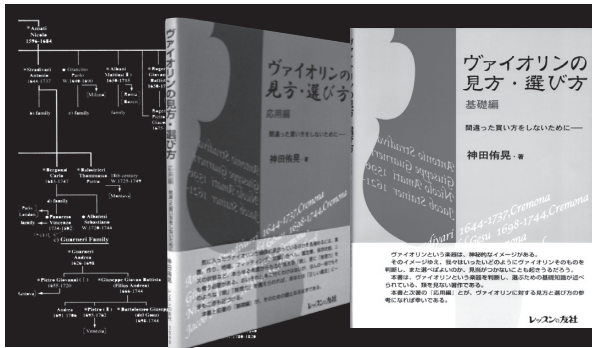
1937年創業
信頼と実績 **弦楽器専門店**
下倉バイオリン

TEL: 03-3294-7706(代) FAX: 03-5283-1488
東京都千代田区駿河台2-1-33 近江兄弟社ビル 2/3F

6名の職人が常駐

3F
修理工房
アトリエ・シモラ
TEL: 03-3294-7717(代)

楽器の買取り・下取りも承っております。
お気軽にご相談ください。



ヴァイオリンの見方・選び方
基礎編
間違った買い方をしないために—
神田佑晃 著

ヴァイオリンの見方・選び方
応用編
神田佑晃 著

1984-1737 Cremona
1668-1744 Cremona
1737-1744 Cremona

ヴァイオリンという楽器は、職人がイメージする、そのイメージが、その仕上げの仕方によってヴァイオリンそのもの音質に、大きな影響を及ぼす。楽器の音質は、その仕上げの仕方によって大きく異なる。それは、ヴァイオリンという楽器を修理し、選りだすための基礎知識の証である。本書は、楽器の音質を決定する、ヴァイオリンに対する見方と選りだすの音質に大きく影響を及ぼす。

レスン友社

ヴァイオリンを知り、真贋を学ぶ

ヴァイオリンの見方・選び方
間違った買い方をしないために—
基礎編・応用編(全2巻)

ご注文、お問い合わせ
03-5489-5161
お近くの大型楽器店、レッスンの友社、
(株)ミュージックプラザ、AMAZONでも
お求め頂けます。

詳しくは **ヴァイオリンの見方** 検索
<http://www.musicplaza.co.jp>

fiorile

弦楽器フィオーレ

〒111-0043
東京都台東区駒形2-5-3 モナツキビル7階
TEL&FAX 03-5828-3061



都営浅草線「蔵前」または「浅草」から徒歩約5分
都営大江戸線「蔵前」から徒歩約5分
東京メトロ銀座線・東武伊勢崎線「浅草」から徒歩約8分



Maison Ruyong, Paris (Renowned since 1786)

VIOLIN RESEARCH
Makers, Restorers & Dealers in
Fine Stringed Instruments & Bows

ここに響く演奏を支えるのは...
音楽に専化する心
注意深い耳と聴力
妥協なく磨かれた演奏技術
そして
よく整備された楽器

VIOLIN RESEARCH, INC.
Maison Ruyong 2F, 4-23 Roppongi, 3-chome, Minato-ku, Tokyo 106-0032, Japan
TEL: 03-3582-3233 FAX: 03-3585-9528 E-mail: info@ricresearch.com Web: www.ricresearch.com/research

バイオリン・ピオラ・チェロ専門店
株式会社伊藤楽器



京王線調布駅1分
10時～18時・日祝定休
調布市布田1-48-2
サンメイツカモシタ103号
042-480-1906
info@ito-violin.com
<http://www.ito-violin.com>